論文要旨

国里愛彦（2015）.
系統的展望とメタアナリシスの必須事項
行動療法研究, *41*（1）, 3-12.

国里 愛彦

2014年から2015年は，ノバルティスファーマの降圧剤の「ディオバン」のデータ改ざんや理化学研究所のSTAP細胞など，多くの研究不正が一般の方の目にさらされることになった。また，心理学においては，nature誌にて心理学の100の研究のうち再現されたのは39本であったとする衝撃的な報告がなされている（Baker, 2015）。意図的な研究不正の弊害も大きいが，それ以上に，質の低い研究から生み出される弊害は，水面下に潜む面があるだけ深刻な問題となる。このような状況を踏まえて行動療法研究では，2014年から2015年にかけて，「行動療法研究における研究報告に関するガイドライン」との特集が組まれた。その特集の一つとして，「系統的展望とメタアナリシスの必須事項」について国里が執筆した。

「系統的展望とメタアナリシスの必須事項」では，系統的展望とメタ分析における報告事項のガイドラインであるPreferred Reporting Items for Systematic Reviews and Meta-Analyses（PRISMA）声明と系統的展望研究の質の評価に関するガイドラインのAssessment of Multiple Systematic Reviews（AMSTAR）を元に，5つの必須事項について具体的な執筆例を元に解説した。取り上げた必須事項は，①事前の研究計画の作成，②包括的な文献検索，③再現可能な研究選択とデータ抽出，④バイアスへのリスクの評価，⑤データ統合方法の適切な選択の5つである。まとめると，系統的展望においては，事前に研究目的や仮説を明確に設定してできるだけ偏りなく文献収集をした上で，他の研究者が再現可能なように研究選択とバイアスリスクの評価とデータ統合を行うことが求められる。なお，系統的展望について主導的な立場にあるコクラン共同計画のガイドラインについての詳細は，「臨床疫学研究における報告の質向上のための統計学の研究会」にて発表した資料をSlideShareにて公開しているので，詳細はそちらを参照いただきたい（参考URL 1）。また，多くの系統的展望論文は介入効果に関するものであるが，アセスメントの診断精度に関する系統的展望も最近は行われるようになってきている。診断精度のメタ分析については，「臨床疫学研究における報告の質向上のための統計学の研究会」にて発表した資料をSlideShareにて公開しているので，そちらを参照いただきたい（参考URL 2）。

引用文献

Baker, M. (2015). First results from psychology's largest reproducibility test. *Nature*, doi:10.1038/nature.2015.17433.

【参考URL】

1. http://www.slideshare.net/YoshihikoKunisato/ss-37490113

2. http://www.slideshare.net/YoshihikoKunisato/ss-40713224